

One Osaka!
大阪維新の会
おおさかいしんのかい

めざせ! One大阪
維新 **新** **タイムズ**
 ISHIN TIMES
Vol.3
令和5年度

発行 大阪維新の会
 大阪府議会議員団
<http://osaka-ishin.jp/>
 〒540-8570
 大阪市中央区大手前
 2丁目1番22号(大阪府庁内)
 TEL (06) 6946-5390
 FAX (06) 6946-5391

大阪維新の会
 大阪府議会議員 **奥村ユキエ** の府政報告



吉村洋文知事

令和6年1月1日に発生した能登半島地震により犠牲となられた方々に、心より哀悼の意を表しますとともに、被災されたすべての皆様にお見舞いを申し上げます。
 大阪府民の皆様のお安全安心のためにも、今後の防災と減災について吉村知事と共に、気を引き締めて取り組んでまいります。
 さて、1月22日から2日間、維新府議団の教育部会にて沖縄県を訪問し、国際化教育や障がい者教育、そして科学の新たなフロンティア開拓などについて行政調査を行いました。その概略をご報告いたします。



沖縄県の4つの教育機関を行政調査 (令和6年1月22日~23日)

1月22日 **学校法人PST アカデミー**
沖縄国際学院高等専修学校



大阪が国際金融都市を目指していく中で、外国人家庭の教育環境の充実が喫緊の課題。村役場跡地を活用したインターナショナルスクールを視察し、その取り組みなどをお聞きました。
 国際バカロレア認定校なので、授業は英語が基本ですが、母語・英語・日本語・しまくとぅば(沖縄のことば)の多言語教育を施すことで、「地域」から国際社会を理解する力を身に付けさせ、民族・国籍・言語・宗教・政治の違いを乗り越えて議論できる環境がここにあります。さらに世界のコーディネーターから得た情報をもとに、移り変わりの激しい世界で、常に最先端の話題をもとに授業を構成することも実践しています。

沖縄県立糸満青少年の家

大阪府立少年自然の家のあり方を再考するにあたり、青少年に対しての教育機関として優れた知見を持っている沖縄県立糸満青少年の家を視察しました。
 特筆すべきは、県立の水産、工業、農林の各高校や障がい者支援会社などと協力して実施する、マグロ解体・研磨機等見学・卵取り等体験、車いす体験等の事業です。子どもたちは、将来の夢に向かって懸命に勉強する高校生や自分の仕事に誇りを持ち、真剣に働く大人から社会貢献を学び、高校生らは未来の金の卵たちへのプレゼンテーション能力が磨けるといふ、双方に対して学びを深化させる事業となっており、まさに教育の真髄といえます。



1月23日 **沖縄県立那覇みらい支援学校**



障がいを持つ児童生徒が健やかに学習でき、個別最適な学びを一層享受するためにも、大阪の支援学校のハード面、ソフト面の改善は大変重要であり、その先進的取り組みをする本支援学校を視察しました。
 「障がいのない人と関わる機会や時間を確保していくことで学校を広く知ってもらい、障がいを持つ人に対する理解を啓くことにつながる」をモットーに、近隣の小学校や高等学校と、音楽・文化・ダンスを通じて共同学習することや、アイヌの元学芸員を招聘するなどの文化交流を実施するだけでなく、各児童生徒が自分の居住地にある学校と年間複数回交流することで地域とともに生きる力を涵養しています。

沖縄科学技術大学院大学(OIST)

大阪公立大学は、2022年4月に大阪市立大と大阪府立大が統合し、世界に伍する大学を目指しています。これからの大阪、ひいては日本をリードするイノベーション人材を育成するために必要なことは何なのか。優秀な研究者や教授陣、外国人留学生をマンパワーでなく、組織として獲得する手法、研究環境や生活環境に対する先進的な取り組みについてお聞きました。
 本大学院は世界に向けたイノベーションを絶え間なく続けているだけでなく、地元沖縄への地域貢献にも力点を置き、世界最高水準の教育研究成果が社会に還元されるようスタートアップ支援の実施、沖縄の特性や資源を生かした研究・産学官連携、地域の児童生徒に向けた科学への興味関心を高める科学教育アウトリーチ活動を実施しています。以上のことからOISTは科学論文の質において国内トップ、世界第9位の評価を受けるに至っています。



奥村ユキエ事務所 移転いたしました

清水はざま公園
 奥村ユキエ事務所
 ココ (千寿ビル5F)
 深井駅
 水賀池公園

大阪府の令和6年能登半島地震における被災者支援

支援状況（令和6年2月25日現在）

石川県への支援

緊急消防援助隊 2月21日まで活動（ピーク時212名）

医療・福祉人材の支援

- DHEAT(医師、保健師、ロジ担) 延べ約220名派遣
 - 公衆衛生(保健師等)チーム 延べ約1,120名派遣(市町村含む)
 - DMAT(医師、看護師、業務調整員) 延べ約810名派遣
 - DPAT(医師、看護師、業務調整員) 延べ約100名派遣
 - DWAT(災害派遣福祉チーム) の派遣(3月1日まで24名派遣)
 - 介護職員等の派遣(2月15日までに100名派遣)
- 応急仮設住宅建設支援 建築職、電気職、機械職各1名



物的支援 石川県七尾市、羽咋(はくい)市に配送食料(10万8000食)、ペットボトル飲料水(5万本)、毛布(1万2000枚)、おむつ大人用(1万枚)、おむつ子供用(7000枚)、生理用品(約5万4000個)、ブルーシート(2000枚)など



給水支援 現在6台が活動中

府営住宅・マンスリー物件の無償提供（令和6年1月9日～被災者受入を開始）

- 提供住宅：府営住宅 当面100戸（17戸入居）
※別途：大阪市、堺市、門真市、東大阪市、松原市、岸和田市、豊中市、茨木市、富田林市、守口市、貝塚市、高槻市、寝屋川市、和泉市、八尾市、大東市、吹田市の公営住宅183戸で受入
- 民間賃貸住宅（マンスリー物件）100戸（府市共同事業）（3戸入居）
- 自力で来阪が困難な方の移動を支援

福祉相談窓口の設置

- 令和6年1月15日から大阪府に避難を希望する方の福祉相談窓口の設置。府に避難した場合の福祉サービス等（介護施設入所や居宅での介護サービス等）に関する相談を受付



輪島市への支援（カウンターパート支援）

避難所運営などを支援するための職員を派遣

- 活動内容：現地リエゾン、避難所運営支援
- 大阪府・大阪市・堺市・府内市町村を併せて1か月で延べ約1,600名派遣



医療人材の派遣

- 公衆衛生(保健師等)チームを避難所へ派遣 延べ約370名を派遣(市町村含む)
- DMATロジチームを輪島市保健医療調整本部へ派遣 延べ5名を派遣
- DPATを輪島市DPAT指揮所へ派遣 延べ約50名を派遣



現地のニーズに沿った物資の支援

- 府内市町村や団体等からの支援を集約し輪島市に配送
(1月14日) 手指消毒液、ボディシート、洗面セット(タオル)、ウエットティッシュ、下着肌着、フロア用クッションマット、牛乳、哺乳瓶 など
- (1月27日) 紙コップ、食器、割り箸、ウエットティッシュ、ラップ類、食品(おぼろ昆布・昆布・ちりめん山椒・リゾット)、お菓子、消毒液 など



キッチンカーあたたかい食事支援隊の派遣

- 1月16日～2月2日
民間事業者と連携しキッチンカー最大4台、小型バン1台派遣、無償で食事を提供
- 温かい食事(牛丼、煮魚、豚の生姜焼き等)、約2万4000食を18日間提供



大阪府の災害対応力の強化（令和6年度大阪府当初予算より）

能登半島震災を踏まえた対策 1.8億万円

組立式洋式水洗トイレの導入

災害時の断水で水洗トイレが使えないことによる衛生環境の悪化を防ぐため、現在備蓄の「洋式・非水流」タイプに加えて、「洋式・水洗」タイプを2024～26年度で2,300基(府内一般避難所毎に1基)整備予定



トイレトレーラー（貸面市HPより）

トイレトレーラーの導入

府内での発災時や被災地支援に利用するため、新たに、トイレトレーラーを1台導入

広域防災機能の充実強化 0.5億円

支援物資を効率的に搬出するため、南部拠点(泉南市りんくう)の保管レイアウトの変更、垂直搬送機や遠隔監視カメラの設置に向けた設計等を実施

大阪府衛星無線等の再整備 0.6億円

情報連絡として使用している現行の衛星無線の運用終了に伴い、電波が繋がりがやすい2026年度の次世代機の運用開始に向けた整備



消防ヘリコプター「なにわ号」

消防用ヘリコプターの整備強化 2.5億円

災害時の緊急消防援助隊の受入体制強化のため、消防用ヘリコプターの格納庫等の建替えや緊急消防援助隊宿泊場所の整備等

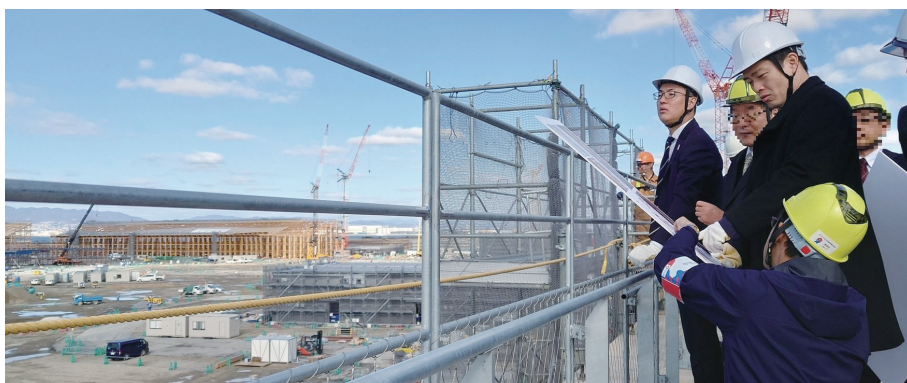
知事と大阪市長

万博会場のシンボル「大屋根」の工事視察

吉村知事と横山大阪市長は、2025年大阪・関西万博で会場のシンボルとして建設中のリング型の木造建築物「大屋根」の工事現場を視察しました。

「大屋根」は、直径675m、1周2km、高さは12m～20m、幅30m、完成すれば世界最大級となる木造建築物で、会場コンセプトの「多様でありながら、ひとつ」を表現するシンボルとして建設されています。

吉村知事：圧倒的なスケールですごい迫力。唯一無二の木造建築になる。



▲「大屋根」にのぼり、工事の進捗状況、耐震性、会場内のほかの工事への影響などについて、博覧会協会の幹部らから説明を受ける。

◀木造構造部分の35%の着工が進み、リングが環状に繋がるのは今年9月ごろの予定

うめきた2期区域の先行まちびらき

令和6(2024)年9月6日に決定

大阪府・大阪市では、西日本最大の鉄道ターミナル駅前に立地し、関西広域からの高いアクセス性を有するうめきた2期区域において、都心部におけるこれまでにない魅力をもった大規模な「みどり」の空間の創出や、ライフデザイン・イノベーションをテーマとした新産業の創出拠点の形成などにより、「『みどり』と『イノベーション』の融合拠点」の実現をめざしています。そのうめきた2期区域(グラングリーン大阪)の先行まちびらきが本年9月6日に行われます。

今後は、令和7年(2025年)の大阪・関西万博の開催までに段階的なまちびらきを行い、令和9年度(2027年度)には全体まちびらきを予定しています。

国内外から多くの人々が来訪する大阪・関西万博に先がけて、大阪の玄関口となる、うめきた2期区域の先行まちびらきを行うことで、大阪・関西万博をより一層盛り上げ、大阪・関西の発展をけん引するとともに国際競争力の強化に資する拠点の形成を推進します。



公園完成イメージ